

F 作品に見る女性の社会進出

法学部卒 長谷悠太

ショボクレ〜とした一人の中年男が路地裏を歩いている。めぼしい客を待っていたと思われる娼婦風の女が男に声をかけて交渉成立、二人はホテルに。さっきまでの暗鬱とした様子とは一変、男は傲然とした態度で女に「夕刊を持ってこい」「お茶を運んで来い」などと命令し女はただ従うのみ。約束の時間が来たところで立場が逆転、女は金を払って消えたと男をあしらう。その時、警察が部屋に突入した。

——F 先生が「増刊ビッグコミック」1976年8月1日号で発表した異色短編『女には売るものがある』のあらすじである。この作品の時代設定は「女性上位時代」が勝ちとられた未来というもので、女はかつての男尊女卑時代に逆行するように女を売ったという「売権防止法違反」の罪で逮捕されたのであった。

さて、日本もかつてとは異なり、女性も社会で働くことが一般的になってきた。詳しく説明することはしないが、これには様々な要因がある。理由の一つとして、女性は家庭を守るものというこれまでの固定観念が過去のものとなったことがあげられる。とはいえ女性が働く上で男性より不利と言わざるを得ない点はいまだ少なくなく、また管理職に占める女性の割合が低いことなどから、今日の政権は企業に対して積極的な女性登用を呼び掛けている。今年9月に成立した第二次安倍改造内閣では5人の女性大臣が就任するということが話題になった。

「女性上位時代」というのは男性にとって差別的であるに違いなく、そんな世の中もまたおかしい。上記作品はそもそも、そのような性差別のある社会を皮肉っていると受け取れる。男性も女性も可能な限り平等に権利が認められるべきである。日本を含む国際社会はそのような社会が実現されるよう目指していると言って良いだろう。

以下では、F 作品の女性キャラと社会との関わりについて見ていきたいと思う。作品の発表年月と当時の世相との関連を考えるべく、初出情報等を付記したところもある。なお、個人や家庭それぞれに選択の自由があるのであるから、以下で触れる女性の人生や家庭生活を肯定あるいは否定することは別段考えていない。

まずはヒロインの例で数人を紹介したい。源静香は『職業テスト腕章』（「小学四年生」1981年4月号）で将来やってみたい仕事として「スチュワーデスか看護婦さんか幼稚園の先生か、なりたいのがいっぱいあ」と授業で語っている（連載当時はキャビンアテンダントや看護師という言葉が定着していなかったことも窺える）。どれも小学生の将来の夢として憧れる職業だと言える。また『のび太と夢幻三剣士』（1994

年公開)では「外交官になって世界平和のためにはたらくのが夢」で夜遅くまで勉強していた。その後の彼女はどのような人生を送っただろうか。『のび太の結婚前夜』(「小学六年生」1981年8月号)のパパの回想シーンでは、高校卒業と思われるカットがあるが、恐らく彼女の実力や源家の方針として大学に進学したと考えるのは妥当だろう。そして上述の夢を叶えたかあるいはどこかの企業に就職したのではないかと思われるが、残念ながら社会人として働く姿が描かれているものは原作にない。しかし少なくとものび太と結婚してノビスケを授かった後は専業主婦に落ち着いているようである。



←『のび太と夢幻三剣士』より。

大長編ドラえもんでは『のび太と雲の王国』(1992年)のパールが天上世界の絶滅動物保護州の管理員であることは印象強いが、他に働く女性の姿はほとんど見られず、冷遇されてさえいる。あえて言及するなら、『のび太の魔界大冒険』(1984年)の美夜子は父親の満月博士の手伝いを、『のび太の鉄人兵団』(1986年)のリルルに至っては祖国メカトピアで低い身分にあるといったところだ。

星野スマレは『パーマン』ではパー子と小学生アイドルの二つの顔を持つ女の子、『ドラえもん』ではスター女優、と別の作品でそれぞれの時代が描かれた異例のキャラクターである。今回は成人となった後者の話に注目する。『影とりプロジェクター』(「小学六年生」1980年1月号)や『めだちライトで人気者』(同1980年4月号)では、大人のスマレが一人前のパーマンとなるべく単身でバード星に渡ったパーマン1号(須羽ミツ夫)の帰りを今も待ち続けていることが示唆されている。これ以降の作品に彼女が登場せず代わって伊藤翼が台頭していることから、彼女は1号が地球に戻った後に芸能界を引退したのではないかという説が藤子ファンの間で話題となったこともあるようだが、この可能性は十分に考えられる。スマレをはじめアイドルや女優といったキャラクターは他にも多く登場している。

『エスパー魔美』(1977~83年)は、自らにエスパー能力があることを発見した佐倉魔美が、同級生の高畑和夫と協力して、ある時は困っている人を助け、またある時は悪をくじく物語である。この作品で注目すべきなのは魔美の母親が専業主婦ではな

く新聞社に勤めているということだ。父親は画家兼高校の美術教師であり、F 作品では珍しい共働き家庭である（他に『T・P ぼん』（1978～1986 年）の並平凡家）。アニメで『記者になった魔美』というオリジナル回があるが、その話ではそんな魔美の母親の仕事にスポットライトが当たっている点で異例であり、必見である。



↑『エスパーコック』より。もっとも、魔美の父が言うには彼女の作る料理は「この世のものとはおもえぬ、奇怪な味」だ(笑)

次に他の F 作品の女性キャラを検討するが、母親はジャイアンや 21 エモン家庭は自営業という形で働いているものの、専業主婦という例が圧倒的である。これは登場する女性キャラの多くが主人公のママや姉妹、同級生か、あるいはどこかの国や星の王女や姫といった具合であり、お姉さんキャラがそれほど多くないということが理由となるだろうか。主なお姉さんキャラとして何人かあげるとするならば、例えば『キテレツ大百科』の勉三さんの彼女である上原君子（アニメ版の上原友紀）は、アニメオリジナル設定では旅客機の客室乗務員として働いている（1990 年代）。『未来の思い出』（「ビックコミック」1991 年 6～8 月）の水谷晶子は劇団の研究生を経て納戸理人と結婚し子供を産んでからも女優を続けているようである。『T・P ぼん』のリーム（1978～79 年）はミドルスクールに通う学生であるが、彼女の使命感の強さは将来も T・P 隊員として活躍する姿を想起させる。

最後に忘れてはならないのは『しずちゃんをとりもどせ』（「小学五年生」「小学六年生」1989 年 6 月号）の出木杉夫婦である。息子をのび太・静香夫婦に預けて夫婦で火星出張していることが描かれているが、結婚後も共に働くという現代の私たちに浸透してきた家庭の在り方を彼が取り入れているのは、のび太たちよりも先進的な印象を与えいかにも出木杉らしいとも思われる。

簡単に諸作品を見てきたわけだが、このあたりでまとめに入ることにする。

F 作品で当時の世相を垣間見ることができることが紹介した数編からお分かりい

ただけたと思うが、次の作品もあげておきたい。異色短編『並平家の一日』（「SF ファンタジア 風刺編」1977年）では、日本の平均を具現化したともいえる家庭のある一日の様子が描かれている。それによると当時は、サラリーマンと専業主婦の夫婦、子供二人の四大家族が典型的だったということになる。共働き家庭やいわゆるカギっ子は高度経済成長期から徐々に増加したことには留意しなくてはならない（前述『T・P ぼん』の主人公ぼんの家庭である並平家は、共働き夫婦に一人っ子という家族構成であった）が、女性は結婚後専業主婦となるのが当時一般的で、またそれが理想とされていたと言えるだろう。しかしいずれにせよ、F 先生が 80 年代以降に発表した作品は読者対象が中学生以上のものが多いこともあるが、働く女性の姿が増えているのは確かだ。

とはいえ、F 作品の主演は幼稚園に通う児童から中学生がほとんどを占める。育ち盛りの子供である。彼らは不思議な力で冒険に繰り出したり世の悪を懲らしめたりと奔放してばかりの日々。そんな彼らも非日常な世界で何かを経験して我が家に戻れば、私たちと変わらない日常を過ごしているはずである。その時彼らが安心を得るための保護者としての役割を果たすママの存在が作品に必要となってくる。いわば日常と非日常の架け橋と言っても良いのではなかろうか。彼らの母親は他の子と同じ“普通の”わが子の成長をそばで見守っているのである。

F 作品が私たちに与えてくれるメッセージ性や面白さには普遍性があるが、発表当時から現代までに変化したことが少なからず存在することも確かである。女性の社会進出が進んできたこともその一つであり、喜ばしい変化である。これからまたどのように変化していくのであろうか。未来を描いた作品としては、大山版ドラの公式設定とされる映画『2112年ドラえもん誕生』（1995年）があるが、この作品でドラえもんは“子守用”ロボットとしてセワシの家に偶然もらえることとなった。22世紀における家庭と仕事の両立方法やロボットに育児を任せるような時代になっているのか、といった点は気になる点である。21世紀の今、そして未来、先生がご存命だとしたらどのような家庭を描かれたのか、叶うならば読んでみたい。

※なお、本稿では余裕がなかったため④作品に触れなかったが、有名作品では『怪物くん』の主人公ヒロシの姉歌子や『プロゴルファー猿』の主人公猿丸の母・姉が働いている（紅蜂などプロは言うまでもない）。また大人向け作品として女性誌に連載した作品も多く、『ミス・ドラキュラ』などOLが主人公のものもあるが、管理職などの地位にある女性はやはり少ない。